

都市再生整備計画 事後評価シート
信濃松川駅周辺地区

平成23年 3月

長野県 松川村

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	長野県		市町村名	松川村		地区名	信濃松川駅周辺地区			面積	480ha	
交付期間	平成18年度～平成22年度		事後評価実施時期	平成22年度		交付対象事業費	1,026百万円	国費率	0.4			
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	事業名 道路(村道1-4号線、村道7-112号線、村道1-8号線、村道4-4号線、村道4-38-53号線、村道1-10号線交差点改良)、高次都市施設(多目的交流センター建設) 高質空間形成施設:松川中央公園サイン工事)									
		提案事業	地域創造支援事業(図書館建設)									
	当初計画から削除した事業	基幹事業	事業名			削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響			
		提案事業	—			—			—			
	新たに追加した事業	基幹事業	道路:村道7-52号線、村道4-118号線、村道2-13号線、村道4-3号線、村道6-600号線			道路:交通アクセスの安全性の向上を図る。			数値目標への影響はないため、目標も指標も据え置く。			
提案事業		—			—			—				
交付期間の変更	当初	平成18年度～平成22年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		—						
	変更	—		—		—						
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標	1年以内の	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み			
	指標1	文化施設の利用者数	人/年	27,873	H16	34,800	H22	130,065	○	あり	多目的交流センター、図書館の建設により、地域コミュニティや地域づくり活動などが活発化し、文化施設利用者数が増加したと思われる。	平成23年4月
									なし			
	指標2	文化イベント開催数	回/年	62	H16	80	H22	102	○	あり	多目的交流センター建設により、村民の文化活動の活性化につながり、文化イベント開催数が増加したと思われる。	平成23年4月
								なし				
指標3	村内観光客数	千人/年	600	H16	650	H22	550	△	あり	社会情勢の変化や景気の低迷などの要因は考えられるが、目標としていた観光客数を見込めることができなかった。観光客数を目標とする指標にしたことの分析が不十分で効果が得られなかったが、H20を減少のピークに増加傾向にあり一定の効果があつたものと考えられる。	平成23年4月	
								なし				
指標4	アクセス道路安全度数	%	10	H16	50	H22	60	○	あり	地区内の道路改良、整備を行ったことにより、利便性、安全性が向上したと思われる。	平成23年4月	
								なし				
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標	1年以内の	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み			
その他の数値指標1	信濃松川駅前レンタサイクル利用者数	人/年	950	H16	/		1,250	/	/	/	安曇野ちひろ美術館などの地区内観光施設へ、レンタサイクルを利用される観光客が多く、アクセス道路の整備などにより、利用者数が増加したと思われる。	平成23年4月
4)定性的な効果発現状況	多目的交流センターの建設により、ワークショップの開催などを通じ、村民の村づくりへの関心が高まるとともに、村民自主的な地域づくり活動や文化活動が活発化し、村の活性化が図られた。											
5)実施過程の評価	実施内容				実施状況				今後の対応方針等			
	モニタリング	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									
	住民参加プロセス	多目的交流センターの運営方法等のワークショップ	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 今後も地域住民や地域づくり活動団体等と連携を図り、必要に応じ実施していく。					
	持続的なまちづくり体制の構築	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									

様式2-2 地区の概要

信濃松川駅周辺地区(長野県松川村) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値	
村中心地域として交流・文化・教養の拠点の創出を図るとともに、住民及び観光客の交通の利便性向上を図る。 1) 交流・文化・教養の拠点として多目的交流センターなどの施設整備を行い、希薄化が進む地域コミュニティ活動が活発化するよう積極的に支援する。 2) 駅や役場を中心とした公共・公益施設及び観光拠点への交通アクセスの利便性の向上を図る。	文化施設の利用者数	単位: 人/年	27,873 H16	34,800 H22	130,065 H22
	文化イベント開催数	単位: 回	62 H16	80 H22	102 H22
	村内観光客数	単位: 千人	600 H16	650 H22	550 H22
	アクセス道路安全度数	単位: %	10 H16	50 H22	60 H22
	レンタサイクル利用者数	単位: 人/年	950 H16	—	—



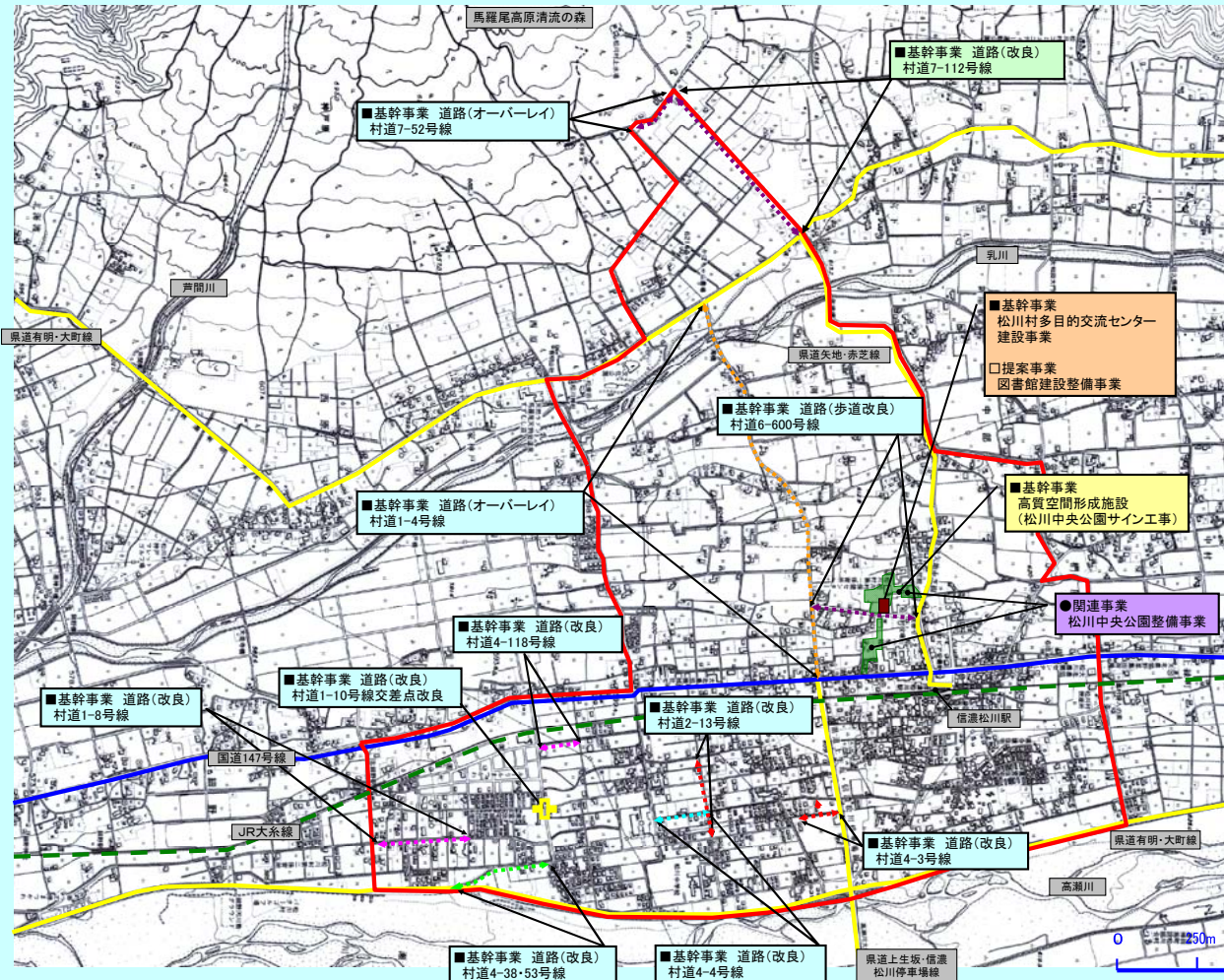
- 信濃松川駅周辺地区
- 国道147号線
- 県道
- JR大糸線



基幹事業: 道路(村道1-10号線交差点改良)



基幹事業: 道路(村道2-13号線改良)



基幹事業: 多目的交流センター建設事業



提案事業: 図書館建設事業



基幹事業: 高質空間形成施設(松川中央公園サイン工事)

まちの課題の変化	多目的交流センターの建設により、文化活動の拠点として多くの村民に利用されるようになったが、一過性のものではなく継続的に利用されることが必要となる。また、アクセス道路の整備では、利便性、安全性の向上が図られたが、利用する住民の交通安全に対する意識の高揚が必要となる。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・村民自主的な活動が活発化したことにより、ソフト面の支援、充実を図る。 ・魅力ある観光振興の充実を図り、信濃松川駅周辺地区の活性化を推進する。 ・村づくりへの関心が高まりつつある中で、多くの村民が村づくりに参画できるような体制づくりの強化を図る。